腑抜けNO会

最愛の妻・夫亡くし…

当事者らが会発足

悲しみ乗り越え前へ

富田さん〝励まし合いながら、共に〟

原田代表(中央)の乾杯の音頭で、親しく交流する参加者

「伴侶を失くした悲しみを乗り越え、一歩足を踏み出そう」――。そんな思いを集めて、妻や夫に先立たれた人たちが10日、共に励ましながら、残りの人生を前向きに生きていこうと呼びかける「腑抜けNO会」を立ち上げ、京都市内で結成総会を開きました。

発足の中心となったのは、20年間自宅で認知症の妻を介護し、一昨年に亡くした富田秀信さん＝南区＝です。旅行代理店に勤めながら、毎日介護や家事をしてきたあわただしい生活は、妻の死で一変。一人暮らしの孤独やパートナーを失った悲しみを痛感したと話します。「同じ仲間同士、残りの人生をどう生きるのか、考える場ができないか」。伴侶を亡くした仲間に呼びかけました。

発足式には、約40人の当事者が参加。自身も夫を21年前に亡くし、3年間「腑抜け」だったという食育アドバイザーの真田滋子さんが、一人暮らしの食生活改善の方策について講演。佛教大教授の原田敬一代表のあいさつに続き、参加者は食事をしながら交流しました。

10カ月前に夫を亡くし、「悲しみが癒えていない」と話す女性(69)は「参加するか悩みました。でも、同じ境遇の人に思いを聞いてもらい、心が癒されました。来てよかった」と涙ぐみました。

城陽市から来た女性(68)は「7年前に夫を亡くして、息子夫婦や孫と住んでるけど、夫のいないさびしさは変わりません。みなさんの話を聞いて、前向きに生きてみたいと思えるようになりました」と笑顔がこぼれました。

会では今後、月に1回勉強会を開催。専門家による健康や年金のアドバイスを受けたり、趣味を広げる場や、ボランティアに参加するなどのきっかけを提供する計画です。

次回は、「お一人料理教室」(午前は午後は食事会)。3日(土)午前10時半後2時まで、中京いき活動センター、京区西大路三条東2本目上がる)。講師は、真田滋子さん。松井信也さん。食材費500円。合わせ☎090・71・4543〈富

数回の準備会を経て、

1年後(2018年 2月10日)

腑抜けNO会 発足。